

# 東南アジアでの 植民地国家建設から見えること

政策研究大学院大学

鬼丸 武士

# 東南アジア地域とは



# 現代の東南アジア国家

- 政治の安定度、民主主義の定着度、地方分権化の進展度、国家の安定度などの面で、さまざまな国家が混在
- しかし、アフリカ地域や中東地域のように、「破綻国家」や「脆弱国家」と言われるような国家はない  
→ なぜか？

# 東南アジア地域の国家 ～近世まで～

- 一部地域を除いて人口希少地域
- マンダラ国家
- 港市国家

# 東南アジア地域での 植民地国家建設(1)

- 東南アジア地域の現代の諸国家の「原型」は植民地期に「上から」建設される
- しかし、東南アジア地域の植民地化には時代的なずれと、宗主国の違いがあり、「近代」国家建設のプロセス、その内容はこのずれと違いを反映したものとなる

# 植民地化

- 16世紀 スペインによるフィリピン
- 17世紀 オランダ(VOC)によるインドネシア
- 19世紀 イギリス(シンガポール、マレーシア、ブルネイ、ミャンマー)、フランス(ヴェトナム、カンボジア、ラオス)
- 20世紀 アメリカによるフィリピン

# 東南アジア地域の 植民地国家建設(2)

- 19世紀半ばまでの東南アジア地域での植民地国家建設は主に「都市」を中心としたもの
  - マニラ、バタヴィア、シンガポールを中心にそこから統治が広がっていく
  - その意味では、近世までの東南アジア地域のマンダラ国家とさほど違いはない

# 東南アジア地域での 植民地国家建設(3)

- 19世紀半ばまで、一部の例外(たとえばジャワ)を除いて、領域支配と行政領域が拡大しなかった理由

→ コストの問題



# 東南アジア地域での 植民地国家建設(4)

- しかし、19世紀末になって大きな変化が生じる
  - (1) 開発の進展(交易拠点から開発へ)
  - (2) 分割の激化(特に大陸部)
  - (3) 植民地抵抗運動の高まりと、統治の正当化の必要性

# 植民地抵抗運動

- 西洋教育を受けた現地人エリートが登場
- ナショナリズム、共産主義の浸透
- 中国での革命運動の進展
- 日本の近代化

# 統治の正当性を いかに確保するのか

- 住民福祉や医療・衛生、教育などの拡充
- 政治的権利の拡大
- その一方で、望ましくない政治勢力・運動の  
取り締まり

# 植民地国家の変容

- 19世紀末からの変化を受けて、植民地国家の行政領域は拡大する
- しかし、行政領域の拡大がどの程度であったのか、また拡大した行政領域を実効的なものにできたのかどうかは、宗主国によって、また植民地化された時期によって差異がある
  - 個々の植民地国家、行政領域ごとの事例を丁寧に比較検討する必要

# まとめ(1)

- 東南アジア地域の国家の原型は、19世紀以降の植民地国家建設の中でつくられる
- この植民地国家建設のプロセスは一様ではなく、19世紀末から20世紀初頭にかけて直面した課題への対処によって、行政領域が拡大した点が重要である
- しかし、この19世紀末からの変化もまた、宗主国や植民地化された時期などによって異なる

## まとめ(2)

- したがって、個々の植民地国家、行政領域ごとの事例を丁寧に比較研究する必要がある  
→ この分野はまだ十分進んでいるとは言えない
- この比較研究の対象はほかの地域の植民地国家、さらには宗主国自体へと拡大した方が面白い

A nighttime photograph of the Shanghai skyline, featuring the Bund and the Oriental Pearl Tower. The scene is illuminated by city lights, with a prominent green-lit building in the foreground. The text "ご清聴ありがとうございました" is overlaid in the center.

ご清聴ありがとうございました